

## 九州東岸地域の港湾における地震・津波対策の方針

### 主旨

- ・九州では近い将来発生が懸念される東南海・南海地震や日向灘地震などにより東岸地域において津波の来襲が懸念されている。
- ・大規模な地震・津波から港湾における人命、財産を守り、発災後においても一定の港湾機能を維持し、速やかに復旧することにより、被災地域の早期復旧・復興を支え、さらにわが国と地域の経済を支えていくことが求められる。
- ・このような観点から、九州東岸3県の港湾において、関係市町村や民間事業者等と、本地域の港湾における地震・津波対策のあり方についての検討等を進め、その場で得た意見等をもとに、今後の九州東岸地域の港湾における地震・津波対策の方針を取りまとめた。

### 港湾における地震・津波対策の基本的な考え方

これまでの津波対策では、過去に繰り返し発生し、今後も発生の可能性が高い津波を想定してきたが、東日本大震災における津波は、この想定を大きく上回り甚大な被害を発生させた。今後の津波対策では、発生の可能性が高い津波を超える津波も想定する必要がある。

「発生頻度の高い津波」に対しては、港湾において浸水は想定されるが、港湾産業・物流への影響は軽微であること

「発生頻度の高い津波を超えた津波」に対しては、港湾において、人命を守り、港湾を早期復旧、再開できること 等を目標に対策を検討。

### 九州東岸地域の主要港湾における地震・津波防災上の課題

- (1) 港湾施設の地震と津波被害 (2) 津波の到達時間と避難 (3) 港湾に立地する産業と津波  
(4) 津波によるふ頭用地等からの貨物等の流出 (5) 港内の船舶の避難、流出 (6) 港湾における危険物への対応

### 地震・津波対策の方向性

#### 各港湾における対応

- (1) 防波堤や防潮堤等の外郭施設等の強化による港湾の被害軽減
- (2) 港湾における安全な避難方策の確立
- (3) 漂流物による2次的被害や危険物等の流出の抑制
- (4) 避難者や緊急物資等の海上輸送拠点となる港湾の応急復旧
- (5) 地域の経済・産業活動の再開・回復にあわせた港湾の早期の本格復旧

#### 広域的な対応など

- (1) 広域的な応急復旧体制等の構築
- (2) 海上輸送の代替港の検討

### 今後

- ・今後、南海トラフの巨大地震モデル検討会で検討されている想定津波等を踏まえ、地震・津波に対して、港湾の利用を速やかに可能とするための計画を各港湾で策定するとともに、これを支える広域的支援体制を具体化することとする。